

吉無田マウンテンバイクフェスタ

4月15日・16日、吉無田高原「緑の村」で日本マウンテンバイク協会福岡県支部(磯島純一実行委員長)の主催によるマウンテンバイクフェスタが開催され、約200人のライダーが参加しました。レースは主に2種類あり、1つ目は吉無田の草原の道を周回するクロスカントリー(XC)。その中でも“XC60”、“XC100”、“XC200”と3つに分かれており、それぞれ60分・100分・200分の耐久レースです。2つ目は“ダウンヒル”。丘の頂上から、急激な下り坂と、でこぼこしたコースを身体を上手く使いながら、全速力で走ります。この大会には、ダウンヒルでは熊本県出身の浦上太郎選手、クロスカントリーでは、マウンテンバイク世界選手権大会の男子U23の日本代表選手だった柴田健太郎選手、北京五輪のトラックレースで日本代表選手として出場した北津留翼選手など、日本でも屈指の選手が出場しました。それぞれのレースを初めて見た観客からは「残り時間のコールがかかった時の、ラストスパートがすごかった」、「急な下り坂なのに、まだペダルをこぐなんて!」と驚きの声があがりました。昼食は、愛郷吉無田(渡邊秀和会長)が声をかけ、たくさんの出店が並び、地元のおもてなしで会場は盛り上がりしました。



1_子どもから大人まで白熱するクロスカントリーレース
2_ダウンヒルで見事なジャンプを決めるライダー
3_地元のおもてなしを楽しむ人たち



横断歩道を歩く児童たち

御船小で交通安全教室

4月21日、御船警察署(川北恭司署長)と交通指導員の協力を得て、御船小学校(大脇為久校長・339人)で交通安全教室を行いました。これは、交通安全に対する知識や安全意識を高めるために行われたものです。安全教室では、警察官と指導員から集団登校時の道路の正しい歩き方や危険を予測することや、回避する方法、また、横断するとき、止まってくれた車へお礼することなど交通マナーも改めて学びました。お礼のあいさつでは、生活安全委員長の後藤ひよりさん(6年)は「右、左、右を忘れず、安全に登下校したいと思います」と話しました。

平成29年度御船町老人クラブ大会

熊本地震から1年の4月14日、御船中学校体育館で、「心ひとつに一日一歩」をテーマに平成29年度御船町老人クラブ大会(本田良一会長)が開催されました。開会式で本田会長は「震災から一年経った今日は、節目の日。これからが大事。地域の中で声をかけあって、手を取り合い頑張っていきましょう」とあいさつ。開会式が終わったあとに、中学生からの励ましの言葉や吹奏楽部の演奏、合唱があり、観客の中には涙を流す人もいました。大会の最後には、歌手の水前寺清子さんの歌謡ショーがあり、熊本弁を交えながら場を盛り上げ、「三百六十五歩のマーチ」など数曲を熱唱。



観客の心に強く響きました。終わりに水前寺清子さんが「がまだしなっせよ!」と鼓舞し、盛大に盛り上がった大会は幕を閉じました。



国家斉唱



合唱する吹奏楽部

御船町を花いっぱい

4月19日、ホームワイド御船支店(藤田亮店長)から中辺田見老人クラブ(馬場洋一郎会長)にマリーゴールドの花が贈呈されました。贈呈した花には藤田店長の、「震災で傷ついた町を、花の力で元気いっぱいにしたい」という思いが込められています。花は、国道443号線の道沿いの中辺田見老人クラブの花壇に飾り、通る人たちを元気にします。馬場会長は、「とてもありがたいです。この道を通る人たちが花を見て元気になってくれれば」と笑顔で話しました。



ホームワイドの職員と中辺田見老人クラブの会員たち

水越で“珍発見”!!

水越の竹林で珍しいタケノコが発見されました。それは、一本の地下茎(土の中にある茎のこと)から9本のタケノコが生えているもので、鶴川憲治さん(水越)が発見しました。孫と一緒にタケノコ掘りに来っていた時に、タケノコが密集していることに気付き、その周辺を掘り出すとつながって顔を出したそうです。鶴川さんは「とても驚いた。すぐに食べるのはもったいないので、観賞用にします」と笑顔で話しました。水越に明るい春が届けられた瞬間でした。



1_同じ地下茎から9本つながってでてきたタケノコたち
2_発見した鶴川憲治さん



2